

第9回北海道小・中・高生短歌コンテスト 2次審査通過作品 261首中入選以外 173首

部門A 小学校1～3年生

	作品	名前	学校	学年
1	じてんしゃでころんでけがしなくわたしきずのぶんだけがまんおぼえる	村上 友理	共和町立東陽小学校	3年
2	夏やすみギラギラ光るゆうやけがとてもきれいでさあかえろうか	相内 雪奈	札幌市立栄南小学校	3年
3	なつやすみかぞくみんなで花火してそらを見あげて星をながめる	関原 愛菜	札幌市立栄南小学校	3年
4	ねえちゃんとケンカしたけどあやまれないあやまりたいけどまけちゃう気がして	川崎 奏	札幌市立東山小学校	2年
5	外あそびボールやてつぼうさあそぼうクラスみんなで楽し時間	上戸 麻衣	札幌市立平和小学校	3年

部門B 小学校4～6年生

6	空の上下のけしきはミニチュアだとまっているような海の上のふね	松岡 萌夏	愛別町立愛別小学校	6年
7	夏の風吹き飛ばされた思い出がフーと遠くにうすく消えてく	上北 翔音	愛別町立愛別小学校	6年
8	山々が色とりどりにかがやいて動物たちも冬のじゅんびだ	光武 果音	網走市立呼人小学校	4年
9	ゆうがたにいっしょにみていた空の色別れをつげるオレンジ色だ	土屋 花	浦臼町立浦臼小学校	4年
10	妹とけんかをするが仲よしだ泣いてわらっていつもーしょ	藤澤 優歩	雨竜町立雨竜小学校	4年
11	日本にゲンシバクダンおちてきたとても悲しいしょうわの時だい。	奥田 光哉	江別市立江別第二小学校	4年
12	うみにいきゆうやけをみてかいひろいまたいきたいなかぞくみんなで	小野寺 乙花	江別市立江別第二小学校	4年
13	花火はねお空で育つお花だよああきれいだなまた見たいなあ	板垣 美涼	江別市立江別第二小学校	4年
14	日の光四角や丸が交さる枝の線路におおかつこいい	吉川 照朗	江別市立角山小学校	4年
15	目の前のとても小さい消しゴムはへったぶんだけ努力のあかし	上川 結衣	小樽市立朝里小学校	6年
16	人多くさわがしかった海はもう波の音しか聞こえてこない	佐藤 小雪	小樽市立朝里小学校	6年
17	雨上がりリダッシュで行った草むらで四つ葉さがして願いとなえる	横井 百華	小樽市立朝里小学校	6年
18	思い出の小さいころの写真見て姉妹そっくり泣き顔笑顔	荘司 かぶり	小樽市立朝里小学校	6年
19	お祭りでたいこをたたいてまめできていたいけれどもがんばったんだ	菅原 竜哉	上砂川町立中央小学校	4年
20	夏休みきれいな海にみとれたよおはよう太陽港に行こう。	廣田 紗良	剣淵町立剣淵小学校	4年
21	公園でブランコにのり空みあげもう秋だなと蜻蛉みている	紺野 香	札幌市立厚別通小学校	6年
22	夏が過ぎすずしい季節秋がきてあと六ヶ月で中学生だ	水野 紗奈	札幌市立厚別通小学校	6年
23	私より一才の成長はやいんだ立って歩いて今日はおどった	石橋 奈々	札幌市立厚別通小学校	6年
24	水曜の給食時間めん類うどんにラーメン僕の好物	児玉 遼暉	札幌市立厚別通小学校	6年
25	紅葉を家族そろって見上げつつ弁当食べる食よくの秋	中田 玲那	札幌市立厚別通小学校	6年
26	友達と仲直りして空を見る雲一つないすんだ青色	塩田 真海	札幌市立厚別通小学校	6年
27	公園にせみがなく声みんみんとひびきわたるよ力のかぎり	久富 未晏	札幌市立厚別東小学校	4年
28	将来は宇宙飛行士になりたいな宇宙で地球の青さを見たい	奥瀬 美月	札幌市立栄南小学校	6年
29	ゆげがたちかつおがおどるたこやきは外はカリカリ中はトロトロ	櫛井 梨加	札幌市立栄南小学校	6年
30	最高の思い出作り出来たかな花火にキャンプ日ぐらしの声	内山 晃太	札幌市立月寒小学校	5年
31	スイカわり私に似ているなぜかって宿題多くてくずれたからさ	佐藤 美月	札幌市立月寒小学校	5年
32	あいつから届いた手紙読んでみる字がきたなくてなにも読めない	田中真梨奈	札幌市立手稲西小学校	6年
33	商店街歩いていると果物屋秋の果物並んでゆうわく	渡部 日子	札幌市立手稲西小学校	6年
34	虫を引くアリを見ている弟が「きっと病院さがしてるんだ。」	川崎 はな	札幌市立東山小学校	4年
35	たのしみは母が料理をしてるとこちょぴっとおかずを盗み食うとき	鈴木 春萌	札幌市立平岡南小学校	6年
36	たのしみは家族で食事なべ料理みんなでつく幸せの時	天野 剛暢	札幌市立北陽小学校	6年
37	たのしみは秋を感じる山の色赤や黄色の混ざりあう時	加藤 匠	札幌市立北陽小学校	6年
38	ゆったりと自分の気分でねて起きてねこはいつも夏休み中	小山 桃子	札幌市立円山小学校	5年
39	青い海赤い太陽白い砂色とりどりに光かがやく	中村 祐介	札幌市立円山小学校	5年
40	夏休みプールに海にすなぶろにながしそうめん鹿児島旅行	庄司 陸	札幌市立円山小学校	5年
41	暑い中坂を登って汗かいて目の前にある函館の海	西島 光輝	札幌市立円山小学校	5年
42	積丹のきれいな夕日見せたくて送ったメールに祖母が喜ぶ	中村 由香	札幌市立円山小学校	5年
43	すいぞく館いろんな魚が泳いでるいっしょになって泳いでみたい	杉本 聖月	鷹栖町立北野小学校	4年
44	雪ふって村の子どもはとびはねる山の大木何思うかな	猪口 綺花	鷹栖町立北野小学校	4年
45	ついにきた二年に一度のピアノしけん期待と不安のはげしいたたかい	山崎 瑠璃	鷹栖町立北野小学校	4年
46	たのしみはリンクへ行ってホッケーのきつい練習のりこえる時	神山 太一	苫小牧市立沼ノ端小学校	6年
47	たのしみは夏休みでのキャンプ場いこと遊ぶ夕ぐれの時	佐々木 宥弥	苫小牧市立北星小学校	6年

48	ひまわりが風にゆられて気持ちそうわたしもいっしょにゆれてみたいな	甲木 希実	名寄市立名寄西小学校	4年
49	海ながめ空を見上げて思うこと広い心の人でありたい	宮川 韻	登別市立幌別西小学校	6年
50	アマガエル毎朝までにペタリとねここが好きなの？気持ち良い？	山田 菜々美	函館市立亀尾小学校	4年
51	お月さまあるくなるとおだんごに私が食べて三日月になる	丸山 花楓	函館市立駒場小学校	6年
52	ケータイで笑顔の写真撮りあつめ離れし友へエールを贈る	佐々木 雄樹	函館市立駒場小学校	6年
53	お兄ちゃんいつもこわくていやだけどほんとはやさしい大事な家族	柳田 梨那	函館市立鍛神小学校	4年
54	夏休み海に入ってオーマイガー海水入ってしょっぱい思い出	山本 彩也	函館市立中央小学校	4年
55	シャボン玉色とりどりの景色がねすけて見えるのキラキラきれい	伊勢谷 真央	函館市立中の沢小学校	4年
56	湿原の広がる緑のその夜にひびきわたるは鳥の鳴き声	塚田 陽昇	浜中町立霧多布小学校	5年
57	桜さき雪どけ水が光りだす湿原世界に新たな命	春日 美咲	浜中町立霧多布小学校	5年
58	ちゅら海の色とりどりの仲間たちサンゴの城でゆうがにおどる	野上 愛唯	浜中町立霧多布小学校	5年
59	夏休みまた昆布かかつい思う帰ってきても宿題の山	澤山 陸斗	浜中町立霧多布小学校	6年
60	ぐうぜんだ空見ていたら流れ星三秒間が心にしみた	尾本 琉伊	美幌町立美幌小学校	4年
61	さっぽろの友だちが来てかくれんぼぼくの心はほんのり赤い	嶋田 響	美幌町立美幌小学校	4年
62	雨がふりごめんなさいと言うように花がどンドン頭を下げる	須藤 花	別海町立中春別小学校	4年
63	三姉妹息ぴったりでレットイットゴーママにおこられパパヘレッツゴー	又野 莉緒	増毛町立阿分小学校	4年
64	つぼみからきれいなさくら満開に花びらのまう春の青空	江口 日菜	森町立尾白内小学校	4年
65	親友とせんこう花火思い出にこの日でわかれまたどこかでね	金澤 にしき	森町立尾白内小学校	4年

部門C 中学校

66	消しゴムで消えてしまえば楽なのにそれができない昨日の言葉	成田 涼	岩見沢市立明成中学校	2年
67	指をさしバカな人だとあざわらう指の先には鏡の自分	堀尾 江梨華	枝幸町立歌登中学校	3年
68	パラパラとめくられていくカレンダー一遠のいていくあの日をおもう	水野 天音	江別市立江別第二中学校	2年
69	あついなと言ってもいみはないことをわかっているがつついでる声	安藤 花華	江別市立江別第二中学校	2年
70	朝起きて「おはよう」というそれだけで幸せ感じ笑顔溢れる	小野瀬 楓	小樽市立銭函中学校	2年
71	金賞の願いをこめたたんざくを柳につるすたなばたの夜	大和谷 るるど	置戸町立置戸中学校	1年
72	盆おどりゆかた姿でげた鳴らしちよっぴりはずかしおとめの心	溝井 伶	置戸町立置戸中学校	1年
73	汗ばんだ手と手がぶつかる瞬間に耳に響くは揺れる心音	土屋 七音	置戸町立置戸中学校	2年
74	いつだっておもい浮かぶよ君のことキラリ輝くまぶしい笑顔	小澤 夕佳	帯広市立帯広第七中学校	2年
75	応援団ブラスバンドがうらやましい僕のチームは親のメガホン	水口 想太	帯広市立帯広第七中学校	2年
76	きみがスキ伝えたいなこの想い反対の言葉真に受けないで	三浦 理央	帯広市立帯広第七中学校	2年
77	落ちつかない最近彼は人気者私は遠目に見てるしかない	鹿野 真里奈	帯広市立帯広第七中学校	2年
78	美術部で今日もうるさい男子たち「まじで」の声が頭に響く	奥野 穂乃香	北見市立光西中学校	2年
79	母と顔自分も思ううり二つきとこうなる未来予想図	安田 陽南	北見市立光西中学校	2年
80	ムカツクぜそんなときにはアイポッド頭の中を曲かけめぐる	井上 響	北見市立光西中学校	2年
81	いつの日か君と見ていた夕焼けが僕の心に染みついている	佐々木 鈴	寿都町立寿都中学校	2年
82	母の日にカーネーションは買えなくて肩たたき券作ってわたくす	近藤 舞雪	札幌市立米里中学校	2年
83	君を待つドアの前で一休みこうして今日もこの道に行く	南出 莉奈	札幌市立米里中学校	2年
84	イキイキと楽器がうたう集いの場音色たくさん心はひとつ	大内 汐音	札幌市立札苗中学校	2年
85	けんかして一人で歩く帰り道いつもの道が遠く感じる	宮崎 野々花	札幌市立札苗中学校	2年
86	六時間社会を学び皆帰り残る時間で自由を学ぶ	杉澤 和之	札幌市立札苗中学校	2年
87	片思い何年間もおいつづけ素直な気持ちあなたにとどけ	伊藤 梨奈	札幌市立札苗中学校	2年
88	夏祭り花火眺める私達このままでいて青春の今	野村 柚月	札幌市立札苗中学校	2年
89	神様が私のもとに舞いおりて願い叶えるそんな夢みる	飛岡 華奈	札幌市立札苗中学校	2年
90	汗かいて踊ったあとのカツカレー野獣のごとき男子の食欲	大野 紗良	札幌市立白石中学校	3年
91	震災の被害を語る大漁旗伝え続けて釜石甚句	加藤 美月	札幌市立白石中学校	3年
92	次々とおわんに入るわんこそば入れ手の合唱はいじゃんじょんと	伊藤 水悠	札幌市立白石中学校	3年
93	震災の復興甚句に聴き入りてあの日のことを忘れはしない	吉田 愛矢	札幌市立白石中学校	3年
94	ハンカチに涼しき藍を染みこませ見上げてみれば東北の空	塩崎 由芽	札幌市立白石中学校	3年
95	藍の葉を砕いてできた黒池に浸けたハンカチ藍より青く	石山 あみ	札幌市立白石中学校	3年
96	大震災心の傷はまだ癒えず復興甚句届け未来へ	山口 夢乃	札幌市立白石中学校	3年
97	絶対に叶えたいんだこの夢をたとえ誰かに馬鹿にされても	栗原 実咲	札幌市立平岡中央中学校	2年

98	雨音が響く五月の梅雨入りの溜まった水にうつる人影	荻原 菜摘	札幌市立平岡中央中学校	2年
99	兄と見た美瑛の丘は素晴らしい畑耕すトラクター行く	橋本 悠汰	札幌市立藤野中学校	2年
100	蝉は鳴き黒猫嘆き日輝く空は未だに泣き方知らず	菩提寺 舞	札幌市立藤野中学校	2年
101	天からの涙が止まぬ夜の闇一時照らすは稲光かな	磯部 竜馬	札幌市立北辰中学校	1年
102	朝つゆをはじくその顔華のようそれもそのはず君は朝顔	石崎 ひかる	札幌市立北辰中学校	2年
103	ありがとうその一言を伝えたいいつもあなたを思っています	川端 大雅	札幌市立前田中学校	2年
104	潮風が運んでくれるあの記憶思い出すたび揺れるさざ波	渡部 夢花	札幌市立前田中学校	2年
105	夏祭り金魚片手にりんごあめやっぱり見たい打ち上げ花火	菅原 博史	札幌市立前田中学校	2年
106	日は落ちて夏の夕暮れ染まる頬時たつことがどこかむなしく	有川 真央	札幌市立前田中学校	2年
107	とつぜんの大雨降ってかんがえた空が泣いてる何に泣いたの	熊谷 舞子	札幌市立前田中学校	2年
108	青空に広がる白いわた雲はいつの日か見た祭りのわたあめ	桑原 夏奈子	札幌市立前田中学校	2年
109	いつからか金魚のいないすいそうにふうーと息かけみなもを揺らす	江上 昇汰	斜里町立斜里中学校	2年
110	夜の道月の明かりに照らされて君の笑顔がかがやいている	蛸子 愛羅	斜里町立斜里中学校	2年
111	キラキラと光り輝やくお星さまあなたはきっともう夢の中	田原 未夢	斜里町立斜里中学校	2年
112	走りたい走りたい走りたい揺れる思いで結ぶ靴ひも	苔米地 柚季	伊達市立光陵中学校	2年
113	「ありがとう」ほほ笑み浮かぶ君の瞳(め)に桃色に染まる心がゆれる	芳賀 郁美	伊達市立光陵中学校	2年
114	登山道緑の香りと川の音頂上着けば広がる雲海	大畑 梨紗	当別町立当別中学校	2年
115	日が沈み闇の球場静けさに遠く聞こえる夏虫の声	西村 吹樹	当別町立当別中学校	2年
116	帰り道夕日を見上げ想う君私の胸もほんのりオレンジ	佐々木 萌香	当別町立当別中学校	2年
117	風が吹き季節の変わり目感じつつ命短し恋せよ乙女	堀井 玲花	当別町立当別中学校	2年
118	逢いたいと想っていても逢えないの今日も貴方は元気でしょうか	小武 小夏	当別町立当別中学校	2年
119	見上げると空に咲いてる光る花夜空を焦がす刹那の貴石	古川 真衣	苫小牧市立明倫中学校	2年
120	うちの庭ぐんぐんのびるささぎ豆ぼくも日ざしを味方に変える	黒滝 翔太	苫小牧市立明倫中学校	2年
121	真夏日の炎天直下蝉の声太陽あびてひまわりのびる	久保 光	苫小牧市立明倫中学校	2年
122	真夏日に白球おいかげ汗光る僕の青春まだまだ続く	末永 佑真	豊頃町立豊頃中学校	1年
123	先輩と夏の思い出作りたい笑顔で終わろう最後の試合	佐藤 流輝也	二セコ町立二セコ中学校	2年
124	太陽に恋して伸びるひまわりよ私の分も大きくなあれ	藤本 真由	二セコ町立二セコ中学校	2年
125	日が沈み頭上を見ればキラキラとあたり一面星の砂浜	松岡 優太	二セコ町立二セコ中学校	3年
126	夏の夜空に咲き散る火の花で眺める人の笑顔もさいた	杉林 優香	函館市立港中学校	2年
127	流れ星「あっ」と重なる二つの音(ね)叶うであろう二人の願い	佐野 翔也	別海町立別海中央中学校	3年
128	アイラブユー「愛してる」ではくどすぎる「死んでもいい」がちょうどいいかな	中山 果林	別海町立別海中央中学校	3年
129	今はまだ二つの傘がゆらゆらりきつといつかは傘を一つに	菅野 響平	別海町立別海中央中学校	3年
130	夏の夜澄みきる風が吹き抜ける青いもみじよ今なに思う	上坂 南緒	立命館慶祥中学校	3年
131	舞い乙女御前に捧ぐ夏神楽しいとうつくしゅう緑の黒髪	青木 志帆	立命館慶祥中学校	3年
132	この夏はすいかとうちわでよっこらしよ空を眺めてごくらくきぶん	山内 愛弓	旭川市立旭川中学校	3年

部門D 高等学校

133	黒板の前にたたずむキミを見て目が合うだけで朱くなる頬	田子 佑希	北見藤女子高等学校	1年
134	あの頃に仲の良かったあの頃に思いながらも明日へと向かう	長屋 葵	北見藤女子高等学校	1年
135	ぼくが今日つまらないといったこの日々は昨日死んだ人が生きてと思った今日なんだ	田中 さくら	北見藤女子高等学校	1年
136	お弁当好きなおかずを最後にと残したけれどおなかいっぱい	川崎 杏実	北見藤女子高等学校	1年
137	ドラえもんテスト前日たすけてよ暗記パンだけあればいいから	能代 歩果	北見藤女子高等学校	1年
138	伝えたいそばにいたいと思うのにみつめるだけでいつも話せず	今田 萌那	北見藤女子高等学校	1年
139	真夜中に必死で覚える文字数字次の日忘却キャパオーバー	佐藤 耀	北見藤女子高等学校	1年
140	いっそもう嫌いになれたら楽なのに気付けば君を考えているの	小笠原 千容	北見藤女子高等学校	1年
141	あなたから話しかけられるときこちなく意識しすぎて気がつかれそう	山本 小雪	北見藤女子高等学校	1年
142	焼きたてのクッキーに似てさくさくと窓から入るあまい陽だまり	宮崎 舞弥	北見藤女子高等学校	1年
143	春の雪知らず知らずに消えていく今の思いも時には勝てない	齋藤 梨々花	北見藤女子高等学校	1年
144	たくさんの人々が溢れててこんな私じゃ溺れてしまうよ	工藤万愛理	北海道旭川商業高等学校	3年
145	君と見た花火大会きれいだね君の方がと言えない僕	米倉 優馬	北海道旭川工業高等学校	2年
146	先輩の奏でる音に迎えられそれぞれの夢今走り出す	中鉢 夢乃	北海道江別高等学校	1年
147	桜咲く新たな道を歩く時夢と希望で高まる鼓動	大野 剛	北海道江別高等学校	1年

148	セキレイの鳴く頃春が訪れて新しき場所今歩みだす	生野 耀脩	北海道江別高等学校	1年
149	夏の日に向日葵みつけふと思う君の笑顔ととても似ている	中村 瑞生	北海道小樽工業高等学校	1年
150	高校生今だに我ら蛹なり殻を破っていつか飛び立つ	佐久間 壮司	北海道小樽工業高等学校	1年
151	ミンミンと蝉の鳴き声朝目覚め始業式まで残りは一夜	齋藤 瑠夏	北海道小樽工業高等学校	1年
152	まだ余裕その慢心があだとなり宿題ためてやっぱりピンチ	伊澤 瑞生	北海道小樽工業高等学校	1年
153	どこかにさ忘れてきたよ夏模様誰か拾って届けておくれ	伊藤 稔浩	北海道小樽工業高等学校	1年
154	扇いでもなにも変わらぬこの暑さ冷えたコップも汗を流して	河内 隼也	北海道小樽工業高等学校	1年
155	5年前すくいし金魚が成長し大食漢のメタボとなりぬ	田口 翔哉	北海道小樽工業高等学校	1年
156	百円で買い求めたる風鈴が値段以上の涼しさくれる	古川 拓未	北海道小樽工業高等学校	1年
157	夏休み友は彼女とお祭りに俺だけ一人家でパソコン	渡部 佳吾	北海道小樽工業高等学校	1年
158	泣いている君のそばにいてだけで何もできずに立ちつくしたまま。	米村 龍之介	北海道小樽工業高等学校	1年
159	最近ニュースで全然流れない復旧を待つ被災者の声	石田 大士	北海道小樽工業高等学校	1年
160	夏の日の澄んだ空見れば我が悩み小さきものと思えてきたり	杉山 人惟	北海道小樽工業高等学校	1年
161	夏の夜線香花火かがやいて舞い散る花と揺れる火の玉	鈴木 琴葉	北海道小樽工業高等学校	1年
162	バスの中外を眺める雨上がり濡れたあじさい青く輝く	本間 智也	北海道小樽工業高等学校	1年
163	別れ際君が好きだと言えてれば今も一緒にいられたのかな	松村 晶	北海道小樽工業高等学校	1年
164	日が昇り目覚めが悪い月曜日目覚し止めてあと五分だけ	若松 海斗	北海道小樽工業高等学校	1年
165	もう逃げないそう決めたんだあの日から夢は自分で掴み取るんだ	河原 達哉	北海道小樽工業高等学校	3年
166	夏休み打ち上げ花火の音だけを一人で聞いた高3の夏	木下 敢	北海道小樽工業高等学校	3年
167	真夜中に君と見上げた星空は二度と叶わぬ遠い思い出	宰務 秀雄	北海道小樽工業高等学校	3年
168	朝早く川辺の道を走り行く空に染み込む川蝉の声	畠中 建太	北海道小樽工業高等学校	3年
169	空に咲く花火はすぐに消えたとして心に残る隣の笑顔	本間 亮一	北海道小樽工業高等学校	3年
170	エトランゼ言葉の壁はあるけれどジェスチャー一つで思い伝わる	村井 透弥	北海道小樽工業高等学校	3年
171	花が咲き蜜を求めて飛ぶ蝶は出会いを求める人と似ている	山本 果穂	北海道鷹栖高等学校	3年
172	夏がきた高校最後のこの時間祭りも海も仲間とともに	田中 拓磨	北海道鷹栖高等学校	3年
173	どうでもいいそうは思ってみたものの近づくにつれさみしさつのる	岩崎 莉乃	北海道戸井高等学校	3年